

エピソード

6.1.1 K-3 開発秘話 2 題

河野宣之

(1) ダクト伝搬

予算の配分は開発の成否を決める重要な要素です。各サブシステムの担当者はそれぞれ製作会社と議論して必要額を出してきます。毎年のことですが、集計すると予算で準備可能な額の2倍以上になります。集計係は河野さんですが、このような額を本部に出しても叱られるだけで、とてもそのまま提出できません。担当者との壮絶な議論が始まります。担当者は必要な機能・性能をぎりぎり絞り込んで安く上げようとメーカーと散々議論して煮詰めた額に対して、身内の河野さんから文句を言われるのですから、担当者は怒り心頭です。特に K さんは口角泡を飛ばして予算の削減に抵抗しました。この声は廊下で繋がった別の建物にいても河野さんと K さんの議論が聞こえたそうです。廊下というダクトに沿って音声伝搬していたということです。

(2) 第3 宿舎の夜の銀座通り

3 研の研究室や VLBI 実験棟は夜 9 時を過ぎても明かりが消えることはありませんでした。酒好きの河野さんは 9 時を過ぎると時々、酒に誘っていました。夏、奥さんが実家に帰ると頻繁に自宅に誘って鬼のいぬ間の命の洗濯よろしく、みんなで宴会をもちました。河野さんの宿舎は多少奥まったところに会ったので、近所の職員の皆さんは河野さんの家に通じる道を、3 研のメンバーが頻繁に通るので、“夜の銀座通り”と名付けました。あるとき河野さんは仕事が片付かないので先に行って飲んでいるように伝えました。後からみんなのいる我が家へ帰ると、Ku さん曰く、“冷蔵庫につまみが何もありません、買って置いてください”。とっさのことで河野さんは“すまん、すまん、明日買っておくから”。よく考えると他人の家の冷蔵庫を空けて空だったとしても不平を言うほうがおかしい！